

1 題材名 フニフニさわさわスクイーズ

2 題材の目標

感性や想像力を働かせて主体的に主題を生成し、材料や用具の特性を生かして表現方法を工夫して創造的に表現するとともに、素材の特徴や他者の作品からよさや美しさ、表現の工夫などを感じ取り味わう。

3 題材について

(1) 題材観

本題材は、高等学校学習指導要領解説芸術編（平成21年12月）美術I「A表現」（1）「表現形式の特性を生かし、形体、色彩、構成などを工夫して創造的な表現の構想を練ること」に基づくものであり、低反発ウレタンスポンジを素材にして、彫刻のカーヴィングの技法を学びながら立体的に作品を制作する活動を行う。低反発ウレタンスポンジの柔らかく加工しやすい特性を生かし、彫刻のカーヴィングの工程や考え方を体験することで、形の大きな量感やフォルムを捉える造形的要素の理解につなげていく。また、触ると柔らかい質感や、スポンジの塊の大きさ、素材の特性から生徒の発想を膨らませていくこととする。

(2) 生徒の実態

本校の1年次生で美術Iを選択している生徒は、美術の課題に熱心に取り組んでいる。これまでの授業では、平面での課題を中心に取り組んできたが、生徒から「絵だけではなく、立体や工作みたいなこともしてみたい。」「先生がつくっているものを自分たちもつくってみたい。」といった声も上がり始め、立体制作に関する関心が高まってきている。

(3) 指導観

本題材は、カーヴィングの手法を使うため、生徒にその考え方、制作工程を示す必要がある。まず、鑑賞の時間を設け、様々な彫刻の素材の特徴や制作手順を確認する。その後、実際に制作するイメージの六面デッサンを行うことで立体的にイメージを掴んでから形成する。形成の初期段階では、作品の細部よりも、大きな量感や単純なフォルムとして捉えることを意識することを大切にす。着色や仕上げの段階は、アクリル絵の具やボンドなど、生徒の表現に合わせて工夫を促していく。また、相互鑑賞や生徒との対話を通して、それぞれの作品を認め合う時間を設ける。

4 題材の評価規準

観点	美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
評価規準	・材料や技法に関心を持ち、主体的に表現活動や鑑賞活動に取り組んでいる。	・材料の特性をもとに、感性や想像力を働かせて、主題を生成し、表現形式の特性を生かして、創造的な表現の構想を練っている。	・材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、主題を追及し表現している。	・他者の作品からよさや美しさ、表現の工夫などを感じ取り味わっている。 ・多様な素材による表現について理解している。

指導と評価の計画（10時間扱い）

次	時	主な学習活動・内容	評価の観点				学習活動に即した評価規準 ( )は評価方法
			関	発	技	鑑	
1	1	彫刻作品の鑑賞を通して、 多様な材料や制作方法について知る。	○			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料や技法に関心をもち、主体的に表現活動や鑑賞活動に取り組んでいる。 (観察・ワークシート)</li> <li>多様な素材による表現について理解している。 (観察, ワークシート)</li> </ul>
2	2	材料から主題を生成して、 様々な角度からのイメージの スケッチをする。	○	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>材料や技法に関心をもち、主体的に表現活動や鑑賞活動に取り組んでいる。 (観察, ワークシート)</li> <li>材料の特性をもとに、感性や想像力を働かせて、主題を生成し、表現形式の特性を生かして、創造的な表現の構想を練っている。 (観察, ワークシート)</li> </ul>
	③	スケッチをもとに、材料に 下描きを行い、大まかな形を 形成する。			○		<ul style="list-style-type: none"> <li>材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、生成した主題を追及し表現している。 (観察, 作品)</li> </ul>
3	4 5 6 7 8 9	大まかな形から少しずつ細 かく形を形成しながら表現す る。  生成した主題に近づけられ るよう着色や仕上げを行う。			○		<ul style="list-style-type: none"> <li>材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、生成した主題を追及し表現している。 (観察, 作品)</li> </ul>
4	10	ワークシートを使用して、 完成した作品を互いに鑑賞し 合う。	○			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料や技法に関心をもち、主体的に鑑賞活動に取り組んでいる。 (観察, ワークシート)</li> <li>他者の作品からよさや美しさ、表現の工夫などを感じ取り味わっている。 (観察, ワークシート)</li> </ul>

6 本時の学習

(1) 目標

スケッチを基に材料や用具の特性を生かし、大まかな形をイメージして制作する。

(2) 準備・資料

教師：参考作品，掲示物，低反発ウレタンスポンジ，はさみ，かみそり，紙やすり，ボンド

生徒：教科書，筆記用具，ペーパーボックス，参考資料，ペン，はさみ，学習カード

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点 ◎評価（評価方法）
<p>1 本時の学習課題の確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>スケッチを基に材料や用具の特性を生かし、大まかな形をイメージして制作しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ あら取りの方法を中心に、大まかな形の形成の仕方について、生徒に実演を通して説明する。</li> </ul> <p>2 大まかな形を形成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 素材に下描きをし、不要な部分を大きくカットする。</li> <li>・ 様々な方向から見て、必要な部分と不要な部分を考えながら制作する。</li> <li>・ あら取りが完了したら、大まかな形を意識しながら徐々に形成する。</li> </ul> <p>3 用具の片付け・清掃を行う。</p> <p>4 本時のまとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習課題を確認し、本時の見通しがもてるようにする。</li> <li>・ あら取りでの注意点を生徒との対話を大切にしながら、実演を通して説明する。</li> <li>・ 切ってしまうと再び戻すことはできないことを伝える。</li> <li>・ 大きなフォルムとして捉えることを意識して制作するよう伝える。</li> <li>・ 刃物類の使い方や注意点を確認し、安全面に留意する。</li> <li>・ 注意点や作業手順をまとめたものを、黒板に掲示する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体の様子に気を配りながら、机間指導で個々の制作の様子を見る。</li> <li>・ 思い切ってカットできていない生徒には、実演での注意点を思い返させたり、黒板の掲示物を見てみたりするよう声かけをする。</li> <li>・ 制作の早い生徒は、作業状況等を聞いたり様子を観察したりしながら表現意図に即したアドバイスをする。</li> </ul> <p>◎材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、生成した主題を追及し表現している。（観察，作品）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大きな欠片は、別に集めることを指示し効果よく片付けが進むようにする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の作品を紹介する時間を設け、アイデアや制作過程を認め合う時間とする。</li> <li>・ 学習カードに本時の感想や意見等を記入し、振り返らせることで次時の活動へとつなげたい。</li> <li>・ 次時の予定を伝え、本時のまとめから次の課題を明確にしていくよう呼びかける。</li> </ul>